

パントミームスとアウグスターレース — 2世紀末—3世紀初のイタリアを中心に —

山本晴樹

元首政期のローマ皇帝礼拝研究に関して、筆者はとりわけその担い手としてのアウグスターレースの実態の解明に取り組んできたわけであるが、関係碑文をみていくなかで気づかされるようになったのは、アウグスターレースの多様性である。その意味でここで取り上げたいのは、パントミームス (pantomimus) と呼ばれる黙劇役者がアウグスターレース職を担っている事例である。通例アウグスターレースはローマ帝国西部の都市において、主に商業・交易によって蓄財した解放奴隷のなかの有力者によって担われるのが常であるが、この場合そのような活動とはほとんど無縁と思われる演劇役者がアウグスターレース職に就いているという意味で注目される。この役者は、前三世紀および前二世紀に活躍したプラウトゥスやテレンティウスによって代表される喜劇のそれとは異なり、元首政初期からローマ支配層の間で流行するようになる仮面黙劇の役者である。彼らはやがて皇帝の周辺でもたびたび見られるようになり、二世紀末から三世紀初頭の頃になると、皇帝の解放奴隷の中に現れるようになった。そしてさらに彼らのなかにはアウグスターレース職に就いている場合もあった。ここでは、主にこの時期のパントミームスに関する碑文を手がかりとして、彼らとアウグスターレースとのかかわりについて見てみることにする。

パントミームスとアウグスターレースの関係についての先行研究は、筆者の知るところでは、若干触れている研究はあるものの本格的な研究はほとんどみあたらない⁽¹⁾。筆者の場合は、皇帝解放奴隷とアウグスターレースとのかかわりを調べていくうちに、両者の関係に気づくにいった⁽²⁾。ここでは、パントミームスとして知られる皇帝解放奴隷に関する碑文を手がかりにして、パントミームスの皇帝礼拝に対する役割について見てみたい。関係碑文のうち、アウグスターレースに関わる事例を時代順に挙げると以下のとおりである。

- [1] L. Aelius Aug. lib. Aurelius Apolaustus (ILS 5188 = CIL IX, 344)
(Canusium, M. アウレリウス期⁽³⁾)
- [2] L. Aurelius Aug. lib. Pylades (ILS 5186 = AE 1888, 126)
(Puteoli, コモドゥス期⁽³⁾)
- [3] L. Aurelius Augg. lib. Apolaustus Memphius (ILS 5191 = CIL XIV, 4254)
(Tibur, 199年)
- [4] M. Aurelius Augg. lib. Agilius Septentrio (ILS 5194 = CIL XIV, 2977)
(Praeneste, 198-211年⁽⁴⁾)

名前の知られるもののうち、皇帝解放奴隷にしてパントミームスであるものがアウグスターレース職についている事例はわずかにこの4例にすぎない。しかしそれでもここから一つの傾向がうかがわれる。すなわちこれらの事例は共通して二世紀末から三世紀初頭に現れており、しかもそれを伝える碑文の出土地はイタリアに集中しているということである。この時期と場所の集中が意味するものを念頭におきながら、以下それぞれの碑文に即して、パントミームスとアウグスターレースとの関わりをより詳細にみてみることにしたい。

[1] L. Aelius Aug. lib. Aurelius Apolaustus (ILS 5188 = CIL IX, 344; Lanuvium, M. アウレリウス期)

[L. A]elio Aug(usti) lib(erto) / [Aur]elio Apolausto / [pa]ntomimo /
[Aug]ustalium q(uin)q(uennali) / [hiero]nice temporis / sui primo /
[col]onia Aurelia / [Au]g(usta) Pia Canusium / d(ecreto) d(ecrionum).

皇帝解放奴隷 L. アエリウス・アウレリウス・アポラウストゥスはパントミームスにして、アウグスターレースのクァインケナーリス (Augustalium quinquennalis)⁽⁶⁾ であり、神前での黙劇の競演における勝利者であり、また彼の時代の第一人者であった。この人物に対して、おそらく出身地と思われるイタリア南部アプリアの植民市カヌシウムが市参事会決議によって奉献を行っている。

ここでは経歴の筆頭にパントミームスの記述があり、その後にアウグスターレースの役職が記され、そしてまたパントミームスとしての業績が続いている。あとの碑文でみるように、通例パントミームスの記述ののちにはすぐその業績がつづくのであるが、ここではアウグスターレースの経歴が間に挿入されている。これはこのアウグスターレースが単なる一年任期のそれではなく、要職 (quinquennalis) についていることが関係しているように思われる。

[2] L. Aurelius Aug. lib. Pyladis (ILS 5186 = AE 1888, 126; Puteoli, コモドゥス期)⁽⁶⁾

L(ucio) Aurelio Aug(usti) lib(erto) / Pyladi / pantomimo temporis sui primo, / hieronicae coronato IIII, patrono / parasitorum Apollinis, sacerdoti / synhodi, honorato Puteolis d(ecreto) d(ecurionum) / ornamentis decurionalib(us) et / duumviralib(us), auguri, ob amorem / erga patriam et eximiam liber/litatem in edendo muner(e) gladiatorum venatione passiva ex in/dulgentia sacratissimi princip(is) / <Commodi Pii Felicis Aug(usi)>⁽⁷⁾, / centuria Cornelia⁽⁸⁾.

この碑文において、皇帝解放奴隷 L. アウレリウス・ピラディスは彼の時代のパントミームスの第一人者であり、神前での黙劇の競演において四度の勝利者であった。そして彼らの守護神アポロへの祭儀の成員 (parasitus) のパトローヌスであり、そのアポロ神の信仰団 (synhodus) の祭司でもあった。彼はまたプテオリーの市参事会決議によって、名誉市参事会員であり、かつ名誉二人委員であった。また経歴の最後には彼が鳥占い官 (augur) であったことが記されている。彼は自分の故郷プテオリーに対して愛着をいだき、並外れた気前の良さで、コモドゥス帝の至高の寛恕 (indulgentia) により、剣闘士の猛獣狩りの大規模な試合を催している。

この人物に関してはアウグスターレースであることは直接記述がないが、しかし碑文の最後に奉献者であるアウグスターレースの下部組織名 (centuria Cornelia) が記載されていることによって明らかになる⁽⁹⁾。従って、経歴の冒頭にはまずパントミームスおよびそれに関する記述がおかれ、アウグスターレースとしての存在は最末尾にしかも直接ではなく間接的に記述されている。

[3] L. Aurelius Augg. lib. Apolaustus Memphius (ILS 5191=CIL XIV, 4254; Tibur, 199年)

Curante / Musonio Iulio / Antullo patrono / municipii / dedicata V[I]I id(us)
Iun(ias) / Anullino II et Frontone co(n)s(ulibus). / / /
.....⁽¹⁰⁾ / Aug., edente / L. Aur(elio) Augg. lib. Apolaus[to] / Memphio /
magistro
..... Τρωασιν / , Ορεστη[ν]..... λ.....αισ L. Aurelio
Augg./lib. Apolausto / Memphio / pantomimo hi/eronicae ter te[m]poris sui
primo / vittato Augg(ustorum) / sacerdoti Apolli/nis Herculano / Augustali /
s(enatus) p(opulus)q(ue) T(iburtinus) / item ornamentis decurionatus honorato.

この碑文ではまず、ティールルの都市パトロンであるムソニウス・ユリウス・アントゥルスの配慮により、コモドゥス帝治世の199年6月6日に、magister⁽¹¹⁾である皇帝解放奴隷ルキウス・アウレリウス・アポラウストゥス・メンフィウスがこの石碑を建立したことが書かれている。

碑文の後半では、アポラウストゥス・メンフィウスの経歴が記されているが、それによれば彼はまずパントミームスであって、神前での黙劇の競演で三回勝利しており、彼の時代の第一人者である。次に彼は頭飾り(vitta)をつけた皇帝の祭司であり、守護神アポロの祭司であり、さらにティールルのヘルクラネウス・アウグスターリス(Herculan(e)us Augustalis)⁽¹²⁾である。そして彼は名誉市参事会員でもあった。

ここでも、経歴の最初にはまずパントミームスとしての存在が強調されており、次にこの人物と皇帝に関わる役職が述べられ、皇帝礼拝に関わる役職としてのアウグスターレースは末尾近くに記されている⁽¹³⁾。

[4] M. Aurelius Aug. lib. Agilius Septentrio (ILS 5194=CIL XIV, 2977; Praeneste, 198-211)

M. Aurelio Aug(ustorum) lib(erto) / Agilio Septentrioni / pantomimo sui
temporis / primo, hieronicae solo in urbe coronato / diapanton ab /
imp(eratoribus) dominis nostris / Severo et Antonino Aug(ustis) / parasito
Apollonis, / archieri synodi, sevir(o) Au[gustali]. / Huic respublica Praenestin(a)
/ ob insignem amorem eius erga / cives patriamque / postulatu populi statuam
/ posuit, d(ecreto) d(ecrionum).

この碑文の記述の順序に従えば、皇帝解放奴隷である M. アウレリウス・アギリウス・セプテントゥリオは、まず彼の時代のパントミームスとして第一人者であり、都市ローマで行われた神前の黙劇の競技で単独の勝利をおさめ、そのことでセプティミウス・セウェルス帝とカラカラ帝の両者により著しく賞賛された。また彼はパントミームスの守護神アポロの信仰団の成員(parasitus)であり、かつその信仰団の長(archierus)であり、そしてアウグスターレースでもあった⁽¹⁴⁾。碑文の末尾にはこの人物が自分の故郷プラエネステに対して多大の貢献をなし、それに市民の要請もあり、それ故市参事会決議によって、彫像が建てられたことが記されている。

ここでもまた当代一流のパントミームスである皇帝解放奴隷の姿が現れているが、この者はアウグスターレースの職にも就いていた。しかし皇帝礼拝の祭儀を担うアウグスターレースの位置づけは経歴の最後であり、パントミームスとしての存在が優先されている。

これまで見てきたなかで、われわれは皇帝解放奴隷がその経歴を述べる際に、皇帝との関係においてきわめて個人的な立場にあるパントミームスを、皇帝礼拝の祭儀を担う公的な役職とみなされているアウグスターレースよりも上位に位置づけているという事例を目の当たりにした。ここには、パントミームスという私的な性格の強い存在が、アウグスターレースという公的な存在に優先する状況が生じている。このことは2世紀末-3世紀初めのイタリアでは、それまで皇帝解放奴隷の経歴のなかで社会的な声望をもつ役職として位置づけられることが通例であったアウグスターレースという役職が次第に名目的なものになってきていることを示すものに外ならないであろう。そして皇帝解放奴隷であるにもかかわらず、その皇帝礼拝にかかわる役職がパントミームスというきわめて私的な職業よりも下位に置かれるという事実から、われわれはアウグスターレースの皇帝礼拝にかかわるその役割が終わりを迎つつあることを感じるとともに、皇帝礼拝のあり方そのものが大きく変わろうとしていることをもまた感じるのである⁽⁴⁵⁾。

註

- (1) 島田誠氏がアウグスターレースとの関連で若干ふれられている。島田誠「元首政期のローマ市民団と解放奴隷」『史学雑誌』第95編第3号(1986年3月)1-36頁、特に14頁参照。なお、パントミームスについての言及がみられる古典的研究としては以下を参照。Friedländer, L., *Darstellungen aus der Sittengeschichte Roms in der Zeit von Augustus bis zum Ausgang der Antonine*, 2. Neudruck der Ausgabe, Leipzig, 1922 (Scientia Verlag Aalen, 1979), I. 62f., II. 141f., IV. 197ff; Art. Pantomimus in: *RE* 18/3 col. 833-869(E.Wüst). 比較的最近の研究として Art. pantomimus in: *Thesaurus Linguae Latinae*, Vol. X, 1 fasc. II, col. 240f.(Gatti), Leipzig 1989; Caldelli, M.L., Ancora su L. AURELIUS AUGG. LIB. APOLAUSTUS MEMPHIUS SENIORI, *Epigraphica*, 55, 1993, p.45-57. Cf. *AE* 1993, 56 adn.
- (2) 拙稿「アウグスターレースとしての皇帝解放奴隷—関係碑文を手がかりに—」『別府大学大学院紀要』第1号(1999年3月)33-41頁。
- (3) Cf. Art. pantomimus in: *TLL*. Vol. X, 1 fasc. II, col. 240f.
- (4) Cf. Art. Aurelius 32) in: *RE* SX col. 90f. (P. Rhoden).
- (5) Augustalium quinquennalis については以下を参照。Cf. Duthoy, R., Les *Augustales, dans *ANRW* II, 16, 1(1978) p.1275.
- (6) Cf. Waltzing, J.-P., *Etude historique sur les corporations professionnelles chez les Romains depuis les origines jusqu'à la chute de l'Empire d'Occident*, tome III, no. 1698 (Ephem. Epig., VIII 369. Notizie, 1888, p.237); *AE* 1993, 56 (但し注釈で言及されている CIL XIV, 4252は明らかに4254の誤り)。
- (7) 碑文中のこの部分はかつて削除されたが、その後復元された。Cf. ILS, 5186 n.5.
- (8) プテオリーではアウグスターレースは下部組織として centuria をもっており、このほか centuria Petronia が知られる (CIL X, 1873; 1888; 8178)。Cf. Art. Centuria, in: *Der Kleine Pauly* (Kuebler).
- (9) R. デュトワはこの碑文をプテオリーの項目の中には挙げておらず、したがってこの人物をアウグスターレースとはみなしていない (Duthoy, R., *Recherches sur la répartition géographique et chronologique des termes sevir Augustalis, Augustalis et sevir dans*

l'Empire romain, dans *Epigraphische Studien*, Bd.11(1976), p.152)。これに対して、G. ブールヴェールはこの人物を centuria Cornelia に所属するプテオリーのアウグスターレースとして解釈している (Boulvert, G., *Domestique et Fonctionnaire sous le Haut-Empire romain: la Condition de l'Affranchi et de l'Esclave du Prince*, Paris, 1974, p.227 n.199)。当該碑文の末尾に現れる centuria Cornelia のとらえ方で解釈は分かれるが、他の碑文においてアウグスターレースの所属を示す用法で現れているので、ここではブルヴェールの解釈をとった (Cf. Waltizng, J.-P., *op. cit.*, tom III, no.1682(CIL X,1873); 1683(CIL X, 1674); 1680(CIL X, 1888))。

- (10) コモドゥス帝の名前は削除されているが、明らかにかつてこの部分に記述されていた。Cf. CIL XIV, 4254.
- (11) この magister の実態は不明である。
- (12) Herculan(e)us Augustalis はティエブルに特有の、ヘラクレス信仰に結びついたアウグスターレースである。Cf. Duthoy, R., *op. cit.* p.1292f.
- (13) この人物に関する別の碑文においても同様な現象が見られる。ただしここでは彼は皇帝解放奴隷としては現れていない。Cf. ILS 5189 = CIL X 3716(Lanuvium): [L.] Aurel[io] / Apolausto / hieronico bis coronato / et diapanton, parasito / et sacerdoti Apollinis, / August(al) Capuae maximo. ここでは彼は神前での黙劇の競演に二度勝利しており、大いに賞賛された。またアポロ神への祭儀の成員にして神官であり、さらにカプアのアウグスターレースの最高位であった。ここでは皇帝解放奴隷と直接記載されていないにもかかわらず、そしてまたカプアにおける最高位のアウグスターレースであるにもかかわらず、碑文の記載の順位においてはパントミームスとしての存在がアウグスターレースのそれに先行している。
- (14) 別の碑文によれば、この人物はローマ近郊のラヌウィウムにおいて、コモドゥス帝の解放奴隷として現れているが、しかしここではアウグスターレースではない。Cf. ILS 5193=CIL XIV, 2113 (Lanuvium, c.187): M.Arue(l)io Aug(usti) lib(erto) / Agilio Septentrio / ni pantomimo sui / temporis primo, sacerdoti synhodi, Apollinis pa / rasito, alumno Faustinae Aug(ustae), producto ab imp(eratore) M(arco) / Aurel(io) <Commodo> Anto / nino Pio Felice Augusto, / ornamentis decurionat(is) / decreto ordinis exornato, et allecto inter iuvenes, / s(enatus) p(opulus)q(ue) Lanivinus. ..idus Commodas / ..[A]eliano co(n)s(ulibus).
- (15) もちろんこのことはローマ帝国全土であてはまるものではなく、帝国辺境属州においては事情は異なっていた。Cf. Chastagnol, A., L'expression épigraphique du culte impérial dans les provinces Gauloises, dans *REA*, T. 97, 1995, nos 3-4, p.593-614.さらに註(2)前掲拙稿参照。

[付記] 本稿は平成11年度文部省科学研究費国際学術研究(共同研究)の成果の一部である。